
峰 厚介クインテット プロフィール

峰 厚介 (みね こうすけ) Tenor Sax

1944年、東京生まれ。1963年にジャズバンドに入りジャズクラブで演奏を始め、1969年にピアニスト菊地雅章に見出され彼のバンドに入団、解散する1973年まで在籍する。1970年には初のリーダーアルバム「MINE」を発表する。この年スイングジャーナル誌の読者人気投票アルトサクソ部門で渡辺貞夫に次ぐ第2位となり新人アルトプレイヤーとして注目を集める。1971年にはピアノのMal Waldronの日本公演及びライブレコーディングに参加、また菊地雅章とJoe Hendersonのコンサートにも参加する。この年よりテナーサクソも吹き始める。1978年には本田竹広らとネイティブ・サンを結成しコンサート、アルバム制作(計8枚)など精力的な活動でジャズ・フュージョングループとして人気を博す。

その後、板橋文夫、井野信義、村上 寛の3人と結成したFour Soundや富樫雅彦のJ.J Spiritsなどを経て1992年自己のリーダーグループ峰クインテットを結成、1993年にはこのグループによる久々のリーダーアルバム「Major to Minor」を出しこの年のスイングジャーナル誌ジャズディスク大賞の日本ジャズ賞を受賞する。1996年には同グループでニューヨークのクラブ「バードランド」に出演、1997年には同グループ3枚目のアルバム「Balancez」を出す。

守谷 美由貴 (もりや みゆき) Alto Sax

香川県出身。中学の吹奏楽部からサクソを始め大阪音大短大部でクラシックを赤松二郎に学ぶ。その後東京に転居し、土岐英史、多田誠司にジャズを学ぶ。2008年、テイチクタクミニートよりアルバム「BIANCA」でメジャーデビューし、ADLIB アワード国内ニュースター賞を受賞する。2010年10月、自主レーベルCoume Music より初のリーダーアルバム『Cat's Cradle』をリリース。現在は自身のリーダーバンドでの活動のほかに様々なセッション、日野皓正(tp)、山下洋輔(pf)、峰厚介(ts)、林栄一(as)、今村祐司(per)、などのベテランミュージシャンと共演する。

板橋 文夫 (いたばし ふみお) Piano

国立音楽大在学中よりジャズ活動を始め、1971年、渡辺貞夫クインテットでプロデビュー以降、日野皓正クインテット、森山威男カルテットを経て、自己のトリオで活躍。1982年ソロアルバム「わたらせ」を発表。同時に全国横断101ヶ所「渡良瀬一人旅」ツアーを敢行、全国的に注目を集め、話題になる。1984年には「板橋文夫ジャズ・オーケストラ」を結成。1985年からは、エルビン・ジョーンズ(ds)や、レイ・アンダーソン(tb)など、世界的なミュージシャンとのワールドツアーを成功させ、国際的な活動に入る。

米木 康志 (よねき やすし) Bass

1952年、函館市生まれ。大学在学中、明田川荘之トリオで演奏活動を始め。その後、植松孝夫グループ、小田切一巳グループに在籍し、折から来日中のドラマーである ドナルド・ベイリーとともに、ハロルド・ランド(ts)、ロレッツ・アレキサンドリア(vo)、と 共演の機会も持つ。その後、板橋文夫(p)、ネイティブ・サン、本田竹広(p)、北海道バンド、大野俊三(tp)、大西順子(p)、との活動も行う。現在は、大石 学トリオ、本田 竹広トリオ、大石 純一郎トリオ等で演奏する。

本田 珠也 (ほんだ たまや) Drums

1969年11月25日、東京生まれ。父本田竹広(p)、母チコ本田(vo)、叔父に渡辺貞夫(As)、渡辺文男(ds)という音楽家系に育つ。小学6年生の時に独学でドラムを始め、1982年、本田竹曠率いる”ネイティブサン”が「第1回斑尾ジャズフェスティバル」に出演した際、飛び入り参加したのが初舞台となり、ネイティブサンのライブやレコーディングに参加するようになる。その後、辛島文雄、大野俊三、伊藤君子、渡辺香津美、増尾好秋、渡辺貞夫等のバンドに参加。中でも1996年イタリアに於いて、大型日本紹介事業フェスティバルの一貫として、辛島文雄カルテットで4都ツアーを行い、初の海外公演に参加する。そして、マルウォルドロン、ジュニアマンズ、秋吉敏子と共演するなど、数多くのセッションやレコーディングに参加する。